

札幌市立上野幌東小学校の実践

(1) はじめに

アイヌ民族の歴史・文化等に関する学習を進めるにあたっては、直接アイヌ文化に触れる体験的な活動を取り入れることによって、児童一人一人がアイヌ民族の歴史・文化等により強く関心をもつとともに、実感的に理解を深めることが重要である。そのため、本校では、第4学年の児童が「札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）」で体験プログラムを実施することにした。

(2) 事前学習

投げ輪突き、魚突きといった子どもの遊びやマレクによる昔のサケ漁の仕方を中心にした体験的な学習を通して、昔のアイヌの人たちが自然と深く関わり、自然を生かして生活していたことを共感的に理解できるようにした。

(3) ピリカコタンでの活動内容

第4学年の児童が、下記のような体験プログラムを実施した。また、体験プログラムの最後に質問コーナーと自由見学の時間を設け、アイヌ民族の歴史や文化に対する理解をさらに深めていくようにした。このような活動を通して、アイヌ民族の伝統的な暮らしや自然観について学ぶとともに、伝統や文化の独自性やそれらを受け継いでいくことの重要性に気付くことができると考えた。

【体験プログラムの主な内容】

- ①講話、歌舞・楽器等の公演
- ②アイヌ古式舞踊体験
- ③昔のアイヌの子どもの遊び体験（投げ輪突き、縄とび）
- ④屋内展示物の解説（③と④は、2班編成で交代して実施）
- ⑤質問コーナー・屋外展示自由見学

(4) 事後学習

「札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）」で体験を通して学んだことを社会科新聞にまとめた。この表現活動によって、児童は昔のアイヌの人たちの知恵の素晴らしさなどについて、改めて実感することができた。

(5) 成果と課題

①成果

- ・アイヌ古式舞踊体験では、汗をかくほど楽しみながら、昔のアイヌの人たちの自然観

や日々の暮らしへの願いなどについて学ぶことができた。

- ・サケ皮の靴やアツシ織の実物を見たり触ったりすることによって、自然と共生するアイヌの人たちの考え方を深く理解することができた。
- ・屋外展示のチセに入って、昔のアイヌの人たちの暮らしについて学習したことを実感的に理解することができた。特に北海道の冬を乗り越える知恵があることについて納得する児童が多かった。

②課題

- ・アイヌ文様に興味をもつ児童も多かったが、見学時間が短く、十分に体験させることができなかつた。文様を切り絵にする活動などは、教室でも可能であるが、ピリカコタンで遊び体験とともに実施できるとさらによかつた。
- ・アイヌの人たちの差別や偏見に苦しんできた歴史的な経緯については、ピリカコタンの見学前に指導はしていたものの、深まった学習にすることができなかつた。第4学年の児童にどのように指導していくかということについて課題となった。

【資料】

(3) の写真



(4) の新聞

